

◇ 学校通信 ◇

令和 8 年 5 月号

桶川市立加納中学校

加納中だより

<http://www.okegawakanou-jh.ed.jp/netc/htdocs/>

《校訓》自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 347名

「まずはやってみる」という選択

校長 齋藤 光

校庭の木々が青々と茂り、生命の躍動を感じる季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃より本校の教育活動を温かく支えていただき、心より感謝申し上げます。

さて、校内を回っていると、授業で難しい課題に真剣な表情で向き合う姿や、グラウンドで新しい技を習得しようと練習を繰り返す姿に出会います。そんな時、つい口から出てしまうのが「自分には無理だ」「どうせできない」という言葉かもしれません。

しかし、物事に取り組む上で大切なのは、「できるかできないか」で判断するのではなく、「やるかやらないか」で決めるということだと思います。

例えば、新しい課題に挑戦したり、苦手なことにあえて向き合ったりする時、最初から完璧にこなせる人はいません。失敗して立ち止まったり、ミスをして落ち込んだりすることもあるでしょう。しかし、その「うまくいかなかった」という経験は、決して無駄にはなりません。「次はここを工夫しよう」、「こうすれば今度はできるかもしれない」という具体的な手がかりを生み、それは必ず次の一歩へ繋がる大切なステップになります。本当に恐れるべきは、失敗することではなく、失敗を恐れて「何もしないこと」です。

挑戦して失敗した時の後悔は、時間が経てば「あの時頑張ったな」という自分への信頼に変わります。一方で、やればよかったという後悔は、いつまでも心に残り、自分の可能性を狭めてしまうかもしれません。

だからこそ、学校は生徒が安心して「失敗できる」場所でありたいと考えています。そして、家庭、地域、学校が一体となって、子どもたちの「まずはやってみる」という勇気を称え、温かく見守ってあげたいと願っております。

【生徒の皆さんへ】

もし今、皆さんの前に「自分には難しいな」と思うようなことがあるなら、「上手にできるかどうか」は一度横に置いておきましょう。まずは「やってみる」ことを選んでみてください。

大切なのは、最初から上手にできることではなく、どうすればできるかを工夫し、あきらめずに「続ける」ことです。その試行錯誤こそが、皆さんを本当の意味で強くします。

皆さんの一歩踏み出す勇気と、粘り強い頑張り先生たちは全力で応援していきます。

